



KAORUKO氏 トルコが公賓として招く

フラワーアーティストのKAORUKO氏は5月、トルコ共和国に公賓として招かれ、現地のフラワーフェスティバルへのショー出演をはじめ、花を介し両国の架け橋となる活動を展開した。

招聘は、氏の活躍を知ったトルコ共和国側から直々にオファーされたもの。「事のすまじきに初めはピンとこなかった」と、海外でも活動する氏にとっても大きな驚きだったという。

トルコの花の一大生産地・アンタリアで開催される国内最大のフェスティバルは今年で10回目。氏は開会式から計7回ショーを行い、トルコ国旗の赤と白の花材で同国への敬意を表す作品をはじめ、ジャパニーズフラワーアレンジメント、日本のポップカルチャー

メインのショーでジャパニーズアレンジメントや、トルコに敬意を表す作品を制作



2016年花博のイベントで子供たちと交流

「カワイイ」の表現、ゆるれるアーケを次々と披露。24日のメインのショーは、街の中心地・共和国広場に来場者1500人以上が詰めかけ、氏のエンターテインメントを五感で楽しんだ。

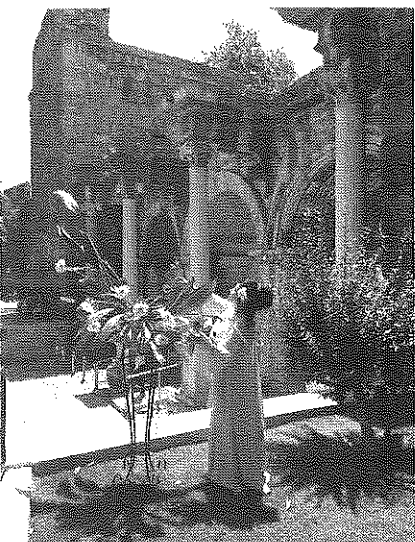
今回、2016年に同国で開催される花博の関連イベントが行われ、現地の子供たちと交流した。100人の小学生がトルコの唱歌「森」をサプライズで歌い、氏はそれに合わせてデモ。氏は「一生懸命勉強して、みんなも夢の花を咲かせましょう」と子供たちにメッセージを贈った。

察も行った。今回ここで得た成果は、日本の花業界発展のためにも広く発信していきたいとのこと。KAORUKO氏は「花で結び付き、盛り上がる架け橋となり、これが私の使命だと強く確信しました」と振り返る。なお、渡航に先立つ5月11日、東京・銀座でトルコ産カーネーションを1000本チャリティー配布。今回の縁を深めようとトルコ大使からも出席し、充実したイベントになったとのこと。

トルコ大使館商務部のムサ・デミル一等商務参

事は「今回、フラワーアーティストKAORUKOさまのトルコ・アンタリアでのフラワーフェスティバルにおけるフラワーアレンジメントショーを通して、お互いの国の文化を知りきっかけができた」と認識しており、また、5月11日、母の日に実施されました銀座でのトルコ産カーネーションの配布についても意義があるチャリティー

イベントとなり、これから時代をまたいで受け継がれてきた日本とトルコの友好関係が、お花によって今後もより強固なものになることを願っております」とコメントを寄せている。



トルコの歴史的建造物「ハドリアン門」の前で作品制作

この他、コンテストの審査員を務めたり、国際フラワーデザイン総合研究所の代表として、チャリティー活動「マーチオブアーケ」を実施。現地の花市場や小売店の視